

# 歴博 くらしの植物苑だより

第113回くらしの植物苑観察会 8月23日(土)

## 『伝統の朝顔』展の舞台裏

本館研究支援推進員 辻圭子

今年で10回を迎える『伝統の朝顔』展は、1999年8月3日にオープンしました。1999年は初めてのこともあり、30日間の開催で10391人の入苑者がありました。新聞やニュースで紹介されると翌日は人ひと人の大盛況でした。栽培は植物苑の渡邊重吉郎さんが担当し、私たちは『伝統の朝顔』の図録づくり、名札作り、記録写真そして、オープンの日から、鉢出し、花摘み、つる巻き、解説に4人があたりました。ここで忘れてならないのは、会期中毎日先着30名に変化朝顔の種子プレゼントの種子の袋詰めを管理部全体の協力をいただいたことです。会期中朝6時には何十人かのかたが並んでいる状況でした。2年目からは栽培もするようになり、こうして栽培・解説・系統維持を始めようになりました。



9年間の会期中267日間に約58000の方が朝顔を見て下さいました。少なくみて15000粒の種をまいたことになります。試しまき500サンプルで15000粒、すごい数字になります。2000年はくらしの植物苑とオランダのライデン大学附属植物園で『日本の朝顔』展を開催しました。この様子は本館第3展示室ミニ企画展示『伝統の朝顔』でご覧ください。10年間栽培や現場で関わっているのが私だけになってしまいました。

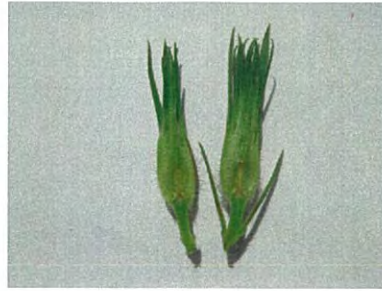
10年の間には、海を渡った華花、平成に作出された朝顔、朝顔の色・模様、朝顔図譜にみる朝顔と展示構成を考えるようになりました。



発見では、2005年に無弁花（がくだけの朝顔）、台咲孔雀の再現などがあります。

しかし一番の成果は、多くのかたに江戸時代のひとが見つけてくれた変化朝顔を、生きた状態で見てもらえること、それには歴史資料の裏付けがあり、資料を読む歴史の久留島・岩淵先生や、朝顔の系統維持もやられている遺伝学の仁田坂先生や、江戸の園芸史の平野先生、多方面からアドバイスいただく箱田先生。朝顔展の火付け役と行動力、解説をはじめたのも辻先生でした。





では舞台裏は



次回予告

第114回くらしの植物苑観察会 2008年9月27日(土)

「初秋の城址公園を歩く」 中川 重年(本館研究部客員教授)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要 要入苑料